赤ちゃんの四季（1）　平成13年秋

天高く、馬肥ゆる秋

連日の猛暑で食欲をなくしていた赤ちゃんも、秋の訪れとともに、食欲が旺盛となり、活気が出てきます。秋は、四季を通じて最も過ごしやすい季節であり、夏バテ気味の赤ちゃんも、ふっくらとしてきます。

9月に入り運動会が済むと、年長児では本格的な受験勉強を開始することになります。連日の塾通いに耐えきれず、発熱や嘔吐などの心身症の症状を呈して、小児科外来を訪れてくる子がいます。秋は、多感な子どもたちをメランコリックな感傷へと導きます。赤ちゃんの心配はいりませんが、問題はお母さんです。

最近、親の育児不安が大きな問題となっており、毎日のように子どもへの虐待記事が報じられています。神戸市児童センターへの虐待相談件数をみても平成12年度には197件と、平成10年度の61件に比べ、2年間で3倍近く急増しています。虐待の70%は実母のよるもので、18%が実父によるものです。実に90%近くが両親によるものであることは問題の深刻さを表わしています。母親への育児支援は、父親・家族だけでなく、地域ぐるみの社会的支援を必要としています。

赤ちゃんの感染症が最も少なく、病気をしないこの季節に、お母さん方は是非育児サークルに参加して下さい。保健所や地域で育児サークルづくりが活発化していますので、同年齢の子どものいるお母さん方と話をして下さい。話をすることにより、悩み・不安は解消され、自信をもって育児ができるようになります。

最近、はしかの流行がみられます。子どもだけでなく、大人での感染も珍しくありません。大人の風疹も結構みられます。赤ちゃんは生まれて半年を過ぎると、次々と予防接種を受けることになります。秋は、予防接種を受けるのに最適の季節です。いろんな感染症の流行する冬にずれ込まないように、対策を練っておいて下さい。